

ビニル系床材の工法仕様は、使用する床材、部位、下地条件、また施工時の環境等によって多様化しています。仕様の大切さを認識することは極めて重要です。

つまり、施工する床材が同じでも、適用される部位が異なると工法仕様が変わり、使用する接着剤も違ってくるといことです。工法

工法	適用する場所	主に使用する接着剤	注意事項
一般工法	湿気の影響を受けない標準的な平場床に適用する ※湿気の影響には、通常のメンテナンス等の水は含まれない	①ラテックス形 (セメントKT) ②エマルジョン形 (セメントFK、セメントAK-S、セメントAK) ③エポキシ樹脂系 (セメントEP20、EP30) ④ウレタン樹脂系 (セメントU10、セメントU、セメントVG)	床材によって使用する接着剤が異なる
耐水工法	床材施工後、湿気の影響を受けやすい平場床(玄関まわり、水場まわり、トイレ、毎日水洗浄する箇所等)および土間床・地下階に適用する	エポキシ樹脂系 (セメントEP20) ウレタン樹脂系 (セメントU10、セメントU、セメントUK)	半屋外や屋外に相当する場所も耐水工法を適用する 施工時に、下地に湿気が認められる場合は、接着剤の硬化不良が生じることがある
垂直面工法	階段のけ込み、ガード巾木・AC、巾木類、およびシートの立ち上げや巻き上げ時に適用する	初期粘着性、初期接着力に優れる接着剤 (セメントU、セメントRV、巾木用セメントS、セメントRK)	
低温時工法	冬期等、施工時の温度が10℃以下となる施工環境下でPタイル等を施工する場合に適用する	ウレタン樹脂系 (セメントU10、セメントVG、セメントU)	水性形接着剤の使用は、接着強さの発現が遅くなり、床材の納まりが悪くなる
放置床工法	床材施工後の使用頻度が少ない場所、および放置期間が長期間にわたる場所にPタイル等を施工する場合に適用する	低温時工法に同じ	水性形接着剤の使用は、床材の突き上げ等が生じやすくなる

◇特殊工法（ビュージスタステップ工法、チャンネルシート工法、導電テープ工法）につきまして詳しくは支店・営業所までお問い合わせください。  
(266～269、273、344ページ参照)

◇詳しくは接着剤選定表〔工法別〕(326、327ページ)をご覧ください。

## 下地別適用接着剤の注意点

### ■ 一般下地に施工する場合

〔コンクリート・モルタル下地、木質系下地、改修下地(補修済み下地)〕

接着剤は、一般工法に準じて使用します。

※他、ビニル床タイルを木質系下地に施工する場合、一般工法用接着剤ではなく、化学反応硬化タイプのセメントU10をご使用ください。

### ■ 金属下地に施工する場合

床材に応じて、反応形接着剤(エポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤)を使用します。

(セメントU10、セメントEP20、セメントEP30、セメントU)

※下地となる金属の防錆処理を必ず行ってください。(防錆塗料によっては、接着しない場合があるので試験貼りで確認してください)

ステンレス、アルミ素材には接着しない場合があります。

### ■ その他特殊下地に施工する場合

〔重ね貼り下地を含む〕

接着剤の選定が多様化しますので、支店・営業所までお問い合わせください。

※下地の種類によって、接着剤の待ち時間、張付け可能時間等が変わります。多孔質で乾燥している下地では、接着剤の乾燥が早くなります。

※軽量骨材を使用した下地では、乾燥が大幅に遅れます。乾燥を確認のうえエポキシ樹脂系接着剤やウレタン樹脂系接着剤を使用する等してください。